

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
単語の類別について理解する	29.90%
代表的な古典の作品に関心をもつ	65.60%
複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	21%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
7-1「文章の中心となる内容について理解するために必要な情報を正確に取り出すことができるか」をみる問題	20.30%
8-3「段落の役割を考えて文章を構成することができるか」をみる問題	26.60%
1-2「話し方や伝え方の工夫を捉えることができるか」を見る問題	41.30%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
- 話し方や話の構成、例や根拠の示し方など、聞くポイントを明確にして話を聞き理解しようとする姿勢が見られた。 - 小学校6年生までに学習した漢字を、部首や意味の違いに注意して正しく書けるようにする力を問う問題の正答率が非常に高く、基礎基本の力の一定の定着が見てとれた。 - 物語の中の表現から、登場人物の様子や周囲の情景などを思い浮かべながらしっかりと読もうとする姿勢が見られた。	- 何を知るために、何を読み取るためにという目的を明確にして文章を読むことに課題があった。 - 分かりやすい文章にするために、例や理由、自分の考えなどのまとまりを整理して書くことに課題があった。 - 話の内容について、話す順序や例の示し方などの工夫に注意して聞くことについて課題があった。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
- 全体として、授業に取り組む姿勢は良好と言える。さらに、漢字の読み書きなどの基礎基本の力についても、ある程度定着しているといえる。読書活動の成果による効果も大きいと捉えている。 - 今後も、集中して授業を受ける姿勢や、基礎基本の反復練習、読書などに継続して取り組む姿勢を伸ばしていきたい。	発問等に対する自分の考えをもていても、それを堂々と発表することに対して強い苦手意識がある生徒が多い。自信を持って互いの意見を述べ合えるような授業の雰囲気、規律作りが必要である。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	授業に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、じっくりと読み込んだり、書いたりという面では不足が感じられる。	- ノートへの書き込み、小作文等、一人で考える時間を設ける。 - 人の意見を聞き、考えを深めるように促す。
2年生	授業に対して意識的に取り組もうとする生徒が多く見受けられる。だが、発表活動などのような、自分の意志を表現することに対して苦手意識がある生徒が多い。	挙手による発言に限定するのではなく、ノート記述の内容の交流などを通して、互いの意見や考えを交流したり、評価し合う場面を意図的に設定し、生徒の視野を広げさせる。
3年生	集中して積極的に取り組み、国語力を高めようという意識の高い生徒が多い。一方自信のない生徒は、『書く』『言語事項』等に苦手意識があり、努力も続かない傾向がある。	「漢字ノート」の提出や漢字小テストの実施、また計画的に文法指導を進める。 - 定期的に「感想文」や「意見文」などを書かせ、発表させることで自信をつけさせる。

●学校全体で取り組む内容

学校全体で取り組んでいる「意見発表会」では、一年に一度じっくり自分の伝えたいことを考えさせ、発表を前提に文章にまとめさせるという『表現活動』の一環として、学年の状況に応じて今後も実施していく。また、1・2年で3学期に実施している「百人一首大会」では、古典に慣れさせ、興味を持たせる上でも大切であり、2学期より計画的に国語科として実施していく。

普段の授業を大切にするためにも、授業規律を確立させ、漢字の学習・辞書の活用・図書室の利用などの取り組みを日常的に系統立てて行っていく。その過程で、漢字能力検定も年に2回実施する。

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
県名と県庁所在地とその特徴	40.6%
時代区分と時代の特徴を表わす図	38.5%
年表を使った出来事の並び替え	34.3%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
・基礎・基本の徹底を行ったため、社会科の基本的・基礎的な用語や知識・理解を問う問題の正答率が高かった。今後も基礎・基本を徹底するとともに、活用型の授業を取り入れていく。	・歴史的分野では年表を使用した問題に課題が見られた。 ・地理的分野では図やグラフ、地図を使用した問題に課題が見られた。

成果	課題
・基礎・基本の徹底を行ったため、社会科の基本的・基礎的な用語の習得ができている。今後も基礎・基本を徹底するとともに、活用型の授業を取り入れ、思考力や論理力や表現力を高めていく。	・社会科の基礎・基本用語の習得ができているので用語を用いて社会的事象をまとめ、文章や言葉で表現する力を言語活動を通して付けていく。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	全体的に学習意欲が高く、授業に落ち着いて、意欲的に取り組む生徒が多い。一方で学習意欲が低く集中力が続かない生徒もいる。	社会科の基礎・基本の習得を引き続き図る。机間指導や個別指導を更に充実させ、全体の底上げを図る。また、言語活動の充実を図り、言葉の力を高めていく。
2年生	全体的に学習意欲が高く、授業に落ち着いて、意欲的に取り組む生徒が多い。発問に対する発言も多く、社会科の基礎的な用語の習得はできている。一方で学習意欲が低い生徒もいる。	社会科の基礎・基本の習得はできている。机間指導や個別指導を更に充実させ、全体の底上げを図る。また、言語活動の充実を図り、言葉の力を高めていく。
3年生	高校入試や専門学校進学への意識が高く、授業に積極的に取り組んでいる。レポートの提出などにも積極的に提出する。全体的に雰囲気は落ち着いている。授業やワークへの取り組みに大きな差がある。	生徒が関心を持って社会科の授業に取り組むように視聴覚教材を多く取り入れるなど生徒が興味と関心をもてるような工夫を行っている。専門用語の説明に時間を取り分かりやすい授業に取り組む。

●学校全体で取り組む内容

・交流活動を通じた自尊心を高めるための取り組みを行い、社会的な関心・意欲を高め、年表や図など資料を読み取る力、社会的事象の特徴を考え表現する力、社会的事象についての知識・理解を深めていく。
--

平成27年度授業改善推進プラン 《数学》 西東京市立田無第二中学校

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
数学B 図形	41.9%
数学B 数学的な見方や考え方	33.4%
数学B 関数	46.5%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
円錐の底面の円周と円錐を転がした時の円周との割合	11.9%
1次方程式を作る	18.9%
線対称の性質を利用し、対称軸を作図する	24.5%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
全国学力学習状況調査では、図形の分野以外で都の平均を上回った。また、「数学の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答が83.4%を占めるなど、習熟度別少人数授業の成果がみられる。	図形の分野での数学的な見方や考え方が身に付いていない点が課題である。また、関数の基礎的な内容の習得が不十分である。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
授業で基礎基本の問題演習を重視し、確認のプリント学習を行うことで、基礎的な事項、基本的な技能・表現の定着が進んでいる。	生徒が数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的な事象に関心をもって学習していく姿勢を育てられるような授業内容の工夫をおこなっていく。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	全体的に授業に集中して取り組んでいる生徒が多い。しかしホップコースでは分からない問題があると諦めてしまい授業に集中できなくなる生徒もいる。	授業内における机間指導の時間を確保し、生徒一人ひとりの実態の把握、課題の解決を図る。 ホップコースにおいては基礎、基本の定着を徹底する。
2年生	ホップコースの生徒は、基礎的な事項を繰り返し学び、自信をつけてきた。その他のコースもそれぞれが自分に適したコースで学ぶことができている。しかし、教員の打ち合わせ時間がほとんど取れていないことが課題である。	打ち合わせの時間を確保し、指導者間で生徒の情報について共通理解を図る必要がある。
3年生	授業に意欲的に取り組む生徒が多く、発言も少なくない。一方で、やるべきことをきちんとできず、授業に集中できない生徒もいる。	少人数の各コースにおいて、机間指導の時間を確保し、生徒一人ひとりへの指導・サポートを充実させていく。 生徒の習熟度・定着度に応じた課題を行っていき、一人一人の学力の向上を図る。

●学校全体で取り組む内容

少人数学級各コースにおいて生徒の習熟度・定着度に合わせた課題や演習を行っていくことで、生徒の数学への興味・関心の向上を図る。
計算問題集で、学習の習慣、基礎的な事項、基本的な技能の定着を図る。
プリントによる問題・課題への取り組みを行っていき、事象を論理的に考察し表現する力、数学的な見方や考え方の定着を図り、解決する力をつけていく。

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
2(3) 雲の作り方	8.9%
6(2) 音の高さの変化	27.8%
1(2) 溶解度について	31.0%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
3(1) 溶質の溶解に関して	19.60%
3(2) 濃度計算	17.50%
9(2) 地震の発生時刻を求める	14.70%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
単純に知識を問う問題については、全国平均と同等またはそれ以上の正答率であったものが多い。今後も継続して知識の定着を図るツールの活用や生徒が主体的に学ぶ授業展開を行っていく。	理論的に思考し解答を導き出す問いに対して、誤答が多い。数値の意味を含めて読み取ることができていない。また、実験・観察を行っても誤ったイメージのまま、知識が身についていない傾向がある。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
使用するノートを統一し、板書の写し方を学年ごとで到達度を設定しながら書かせている。知識を問う問題については正答率の向上が見られる。	何を問われているかを理解できていない場合も含め、数値に関わる問いへの対応力を育成しなければならない。数値や単位、用語の意味を丁寧に指導し、知識として定着させるとともに、その知識を活用し解答を導き出せるようにする。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	反応が良いが、やるべきことをきちんとできない生徒が散見される。また、「理由を答えなさい」という問いに対して、答えられない生徒も多いので、一つ一つ丁寧に指導していく必要がある。	授業規律の周知・徹底をするとともに、簡潔で復習しやすい板書・ノート作りを行う。机間指導の時間を多く取り、一人一人へのサポート・指導時間を確保する。
2年生	授業規律が向上し、その授業で取り組むべき課題の把握もできるようになってきた。論理的に思考し、数値を使って問題解決を行っていくことが苦手な生徒が多い。	数値のあつかいにより問題解決をはかることの大切さや意味を教えていく。また、その問題解決のために、生徒に数値や単位の意味を理解させ、計算スキルが身につけられるよう、授業展開の工夫と重点化をはかる。
3年生	「わからない」、「あいまい」である単元がある。その単元について質問する・生徒同士で相談するなどの解決行動がとれていない。	二人体制で、単元を明確に割り振り、復習を担当する教員を配置し、1・2年生の単元の復習対応が可能な体制にする。実験や観察等は、動画やアニメーションを提示し、より伝わりやすいように授業展開を工夫していく。

●学校全体で取り組む内容

実験・観察はできる限り理科室で行い、少人数の班で全員が実体験をするよう配慮しながら、知識や実験技能の定着を図る。また、実験が困難なものについては、実際行ったものの動画やアニメーションを提示して、理解を深めさせる。思考・表現の力については、班ごとに議論させたり、意見を発表させたり、相互の予想や考察等を交換し、言語活動を通して相手に伝えることも学習させる時間を確保していく。レポートやワークシート等、生徒へ与える課題についても改善を図りながら、力が育成できるツールとして最適なものになるよう改善していく。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
合唱指導においては、チームティーチングにより、きめ細かな指導ができたので、効果をあげることができた。また、器楽指導においても全体指導と個別指導と両方対応できたので、演奏の質を向上させることができた。	自分から行動を起こすことがあまり見られず、教員の指示がないと行動を起こさないところがある。また、音楽的な表現が足りないところがある。今後は、学級委員や合唱コンクール実行委員、パートリーダーがもっと声かけをするように働きかけたり、強弱をつけたり歌詞の内容の理解を深めさせる必要がある。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	歌に対して意欲的な傾向がみられる。大多数の生徒は、集中して授業に取り組んでいるが、授業に対して落ち着かない生徒が数名みられる。	授業がおちつかない場合は、学年の教員とも連携をとり、対象生徒に指導する。歌声をより大きくさせるために、体を使っての呼吸法や発声の仕方を身につけさせるように繰り返し指導する。
2年生	1年の時より歌は声が出るようになってきた。しかし、集中力に欠ける場面がみられる。中には忘れ物が目立つ生徒がいる。また、鑑賞の仕方には個人差が見られる。	授業の前に持ち物調べを毎回行い、忘れ物があった場合は、指導する。鑑賞において、強弱、テンポ、リズムに着目した鑑賞の仕方や鑑賞文の書き方を指導する。
3年生	歌に対して意欲的な生徒が多く、鑑賞など、机上学習にも集中して取り組む生徒が多い。	強弱や歌詞の内容を意識しての表現がまだ不十分なので、歌詞をはっきり発音させたり、歌詞の内容を考えさせる。また、強弱がはっきり聴き手にわかるように表現の工夫をさせる。

●学校全体で取り組む内容

合唱コンクールにおいて、ひと通り合唱できるようにするまでに音楽科で指導するが、クラス練習の方法については、担任や学年世全体で連携して取り組まなければならない。実行委員会でクラス練習の方法を周知させ、実行委員やパートリーダー、指揮者、伴奏者が中心となって主体的に進められるように指導していく。また、実行委員がリードするが、人任せにせず、クラス全員が協力して合唱創りに取り組むように指導していく。学校全体で合唱コンクールを盛り上げるには、豊かな声量や表現力、クラスで合唱を創り上げる上での行動力や率先力、協調性を伸ばしたい。こうした取り組みによって、生徒の自尊感情を高めることができると考える。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
・課題のねらいや制作の流れについて十分理解させることに努め、発想段階をより一層丁寧に指導したことで、独創性豊かな作品が多く生まれた。 ・予定時間内に完成させるための集中力と計画性は、学年進行に比例して身に付いてきている。	・日常生活の中で、身の回りの事物に対し関心をもって眺め、対象物の形や構造、色彩等を観察する習慣を身に付け、創作活動に反映できる力を育てる。 ・完成度を高め、十分な達成感を味わうことで次回への意欲につながる指導を行う。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	授業規律が定着しており、落ち着いた環境で学習に取り組むことができる。意欲的に課題に臨む生徒が多く道具の扱いも丁寧である。一部、集中力・理解力に乏しい生徒が見られる。	本時のめあてを一層明確にするため、従来通りの口頭及び板書での説明に加え、可能な範囲で制作段階別に参考作品を提示する。課題を精選し、経験幅を広げる。
2年生	課題に対して取り組む姿勢は良いが、深く掘り下げて考える力が乏しい傾向が見受けられる。生活面・学習面に顕著な課題をもつ生徒達が少なくないため、個別指導が必要である。	動機づけをより高めるための資料や作品提示の工夫をする。また、相互鑑賞など話し合いの活動を設け、表現活動と言語活動を関連させることで、考える力を養う。可能な限り、個別に支援を行う。
3年生	・進級と共に成長し、授業への姿勢が大きく改善されてきた。学習への意欲が高まり、課題への取り組み状況も良い。一部、完成度を高めるまでの意識に乏しい生徒がいる。	既習事項を応用・発展させながら、課題に取り組ませる。毎時間、制作計画と振り返りを記入させることで、意識を高め集中力をさらに伸ばしていく。

●学校全体で取り組む内容

- ・校内作品展で発表することは、自分の作品を客観的に見る良い機会となる。また、作品の相互鑑賞を行うことで、仲間の良さを発見し、認め合う力を養う。
- ・自分の考えを周囲に伝え、受け入れ認めてもらえることを通して、自尊感情や自己肯定感を高める。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
・本校で取り組んでいる体力トレーニングを、三年間通して行うことで二年生から筋力・持久力は全国平均を超えるようになってきた。また、その他の種目でもよい結果が出ている。	・小学校から入学して基礎的な体力が身に付いていないので、授業の初めに体力トレーニングを取り入れ、三年間を通して基本的な体力の育成に当たりたい。 ・互いに教え合う授業形態を多く取り入れることで、教え合いながらの成長を促していきたい。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	・基礎的な体力が無く、授業のランニングでも隊列を保って走ることが出来ていない。特に持久力や柔軟性は、都や市の平均を下回っている。 ・集団行動の基本が出来ていない。	・体力トレーニング及び柔軟運動を取り入れるために、運動の内容や効果について理解させ実践していく。 ・体育の授業初めに集団行動の基本的な指導を取り入れ、集団としての資質を高めていきたい。
2年生	・入学時に比べて、体力が付いてきてはいるが、都や全国の平均を上回っていない。 ・自分の好きな種目には積極的に取り組むが、それ以外の種目には消極的になってしまいう生徒が多い。	・体力トレーニング及び柔軟運動を継続的に取り入れるとともに、体育理論や保健分野を通して、意識の向上に努める。
3年生	・授業に対して積極的に参加をする生徒が多く、体力トレーニングにも意欲的である。新体力測定の結果として持久走は全国の平均を上回っているが、柔軟性に欠けるところが見られる。	・体力トレーニングを画一的に行うのではなく、個々に自己の体力を理解してトレーニングの内容や回数を考えて取り組む。ストレッチ運動に対する意識を高め柔軟性を高めていく。

●学校全体で取り組む内容

学校の教育目標である、健やかな体の育成を目指して、一年生から三年生まで三年間を通して、授業の初めに体力トレーニングを取り入れ、チームティーチングを活用して個々の生徒の体力を高めていく。また、グループ学習における互いの声かけを大切にして、自尊感情を高めていく。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
基礎学力と基本的技能の定着をはかるために、授業規律の確立とその徹底を心がけた結果、学習に取り組む姿勢が良化した。	基本的な知識の習得と定着が課題である。週1時間(第3学年は0.5時間)であることや、日常的に家庭学習する習慣のあまりない実技教科であることを考慮した課題の提示を工夫していきたい。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	基本的な生活習慣と学習習慣が身についており、授業規律もしっかりと守り、落ち着いた環境で学習に取り組むことができる。課題を精選し、基礎学力と技能の向上をはかっていく。	基礎力の定着を定期的に確認するために、小テストや実習チェックを実施する。併せて個別指導により、個々のつまづきに対して支援を行う。全体的に底上げをしていきたい。
2年生	授業規律の確立と定着に時間を要した。学習に対する姿勢や態度に問題のある生徒が多い。基本的な生活習慣も含め、真剣に学習に取り組ませることに重点を置きたい。	実習や作業学習を中心に、アクティブな学習環境と指導を実施することにより、意欲的かつ能動的な学習習慣と態度を身につけさせる。
3年生	基本的な生活と学習習慣が定着しており、授業態度も良好である。個々の力をさらに伸ばすために、能力別課題に取り組ませ、限られた授業時数で効果的な指導を実施していく。	能力別課題と応用課題を授業のルーティンとし、習慣的に実力をつけさせる。毎回記録用紙を点検チェックすることにより、成果を確認把握し、学習意欲の強化をはかっていく。

●学校全体で取り組む内容

実践的・体験的な学習活動、教え合いや学び合い、助け合いを取り入れた班活動を取り入れることにより、コミュニケーション能力や発表能力を育てる。

学習活動の前半に、基礎的・基本的内容を習得し、後半、作品作りを通し、ものづくりの楽しさや作り上げる喜び、達成感を得、市内作品展や校内作品展に出品することにより、創作意欲を高めるとともに、自尊感情や自己肯定感を高めることにつなげていく。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
①製作において、能力に応じて努力し、より良い作品を作り上げようと取り組むことができた。 ②個別の支援や指導を行い、作品を完成させ、作品展へ出品することができた。 ③生活に関する課題を考える中で、生活への興味・関心を更に深める生徒が増えた。	①生徒の興味・関心を生かした授業の展開をさらに進めていくこと。 ②生活と関連した学習活動をさらに進め、生活をよりよくする意識を高めていくこと。 ③限られた時数の中で、実践的・体験的な学習活動を充実させる授業の展開をさらに進めていくこと。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	全体的に活発に学習活動に取り組む状況の中で、ものづくりの基礎的・基本的な学習を進め、得た知識や理解を実際の製作での技能へとつなげ、達成感を得られる作品の完成を目指す。	年々、子供たちの実生活での体験が少なくなっていく中で、生活に関わる技術を活用できるよう、道具の安全な使い方一つ一つを丁寧に教え、実践させていく。また、作品展への出品をすることで、製作意欲を高めていく。
2年生	全体的に前向きに学習活動に取り組む状況の中で、食に関する学習を進め、実習を通して実際の生活で実践する力をつけ、よりよい食生活を目指し生活に生かしていく姿勢を育てる。	年々、子供たちの実生活での体験が少なくなっていく中で、生活に関わる技術を活用できるよう、実習を通して安全な道具の使い方を学び、実生活で実践できる意欲と能力を育てていく。
3年生	全体的に落ち着いて学習に取り組む状況の中で、家族や家庭と子供の成長の学習を進め、生まれてから今日まで多くの人に支えられ育ってきたことを知り、これからの生活に生かしていく姿勢を育てる。	核家族化が進む中、赤ちゃんがどんな風に育てられていくか目にすることがなくなり、自分がどのように育てられたかを知る機会がなくなっている中で、次世代の子供たちを育てていくことになる生徒たちに、大切なことを伝えていく。

●学校全体で取り組む内容

実践的・体験的な学習活動、教え合いや学び合い、助け合いを取り入れた班活動を取り入れることにより、コミュニケーション能力や発表能力を育てる。
 学習活動の前半に、基礎的・基本的内容を習得し、後半、作品作りを通し、ものづくりの楽しさや作り上げる喜び、達成感を得、市内作品展や校内作品展に出品することにより、創作意欲を高めるとともに、自尊感情や自己肯定感を高めることにつなげていく。

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
正しい文法を使って書くことができるか。	39.90%
与えられた話題と条件に沿って書くことができるか。	26.60%
読み取った内容を関連づけて、正しい選択肢を選ぶことができるか。	36.40%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
・会話を聞いて、正確な情報を聞き取る力がついてきた。 ・まとまりのある英文を読み、中心となる話題を捉えることができる力がついてきた。 ・平叙文・疑問文の語順を理解できるようになってきた。 ・既習の知識を活用して、コミュニケーションを図ろうとする意欲が見られた。	・会話の内容が聞き取れる一方で、自分が質問を受けたときの適切な応答の仕方が未定着である。 ・読む力において、話題を読み取れる一方で細部を正確に読み取ったり、内容を関連づけたりする力が不十分である。 ・書く力においては、前後の文脈を関連づけたり、条件に沿って正確に表現したりする力が不十分である。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
・必要な表現や技法を用いて、継続して英語をやりとりする力が徐々にできてきた。 ・英文を書く機会が増えたことで英文に慣れ、書く力の素地を養うことができた。	・未習の表現については質問したり、既習の表現などを用いやりとりを続けられるようにするための工夫と手立てが必要である。 ・文と文の順序や相互の関連にも注意を払い、表現する力を育むための工夫と手立てが必要である。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	・聞くこと、読むことについて意欲的に取り組む一方で、話すことに消極的であったり、書くことに難しさを感じている生徒が見られる。	・ペアやグループで助け合いながら話す活動を継続的に取り入れる。基本事項を毎回繰り返して書く時間をとると共に、既習事項を用いて自己表現文を書く場面を設定し、表現する力を育てる。
2年生	・聞くことに対して、意欲的に興味を持って取り組む生徒が多い。コミュニケーション活動においては、基本的な表現を使って会話活動に取り組む様子が見られる。一方で、複雑な文の読解や、既習表現を活用したライティングや表現活動には苦手意識を持っている生徒が多い。時間をかけて練習を重ねていく必要がある。	・語順トレーニングやチャンクリーディングなどを通して、足場を確保し、英語の仕組みを継続的に指導していく。 ・ペア活動・グループ活動を通して、お互いが学び合う学習環境を整える。 ・自己表現の機会を増やし、内容をフィードバックしていくことで、書いたり話したりすることへの意欲を高められる授業展開をしていく。
3年生	・既習事項の定着を図るためのくり返し学習に意欲的に取り組む。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあうなど活動に取り組む意欲の低い生徒が見られる。	・発音の基本、語句や文の構造についての理解や定着のための練習を確実にするとともに英語を使用して具体的な場面や状況にあった適切な表現を自ら考えて活動する場面を多く設定する。

●学校全体で取り組む内容

・「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、及び「書くこと」の四領域のバランスに配慮した言語活動に多く取り組ませ、コミュニケーション能力の基礎を養う。 ・上級学年においては、今までの学年で学んだ内容をくり返し学習させ、言語材料の確かな定着を図る。 ・言語の使用場面を多く設定し、身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちを相手に正しく伝えたり、聞いたり、読んだりしたことなどについて問答したり、意見を述べ合ったりすることを通して、自尊感情や自己肯定感を高める。
--